

会議録（要旨）

会議の名称	令和元年度第2回浅口市総合計画審議会及び 令和元年度第1回浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会
開催日時	令和元年11月19日（火）午後1時30分～午後3時30分
開催場所	浅口市役所 消防機庫2階会議室
出席者氏名（敬称略）	中村 良平、井上 邦男、中務 美保子、原田 一成、松本 めぐみ、小野 隆久、福嶋 啓祐、山下 隆志、山田 直子、吉岡 貴美、瀬良 憲昭、柏原 淳、谷本 勉、鈴木 義治
欠席者氏名（敬称略）	渡部 育生、三宅 秀次郎、石井 修平、守屋 靖
会議次第	1 開会 2 答申 3 諮問 4 市長あいさつ 5 議事 （1）第2期浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について （2）浅口市人口ビジョン（改定）（素案）について （3）第2期浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について （4）その他 6 閉会
配付資料の名称	1 審議会次第 2 答申書 3 審議会名簿 4 審議会条例 5 策定スケジュール 6 資料1 第2期浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針 7 資料2 浅口市「人口ビジョン（改定）」と「第2期総合戦略」の全体像 8 資料3 第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けて 9 資料4 浅口市人口ビジョン 10 資料5 浅口市人口ビジョン（改定）（素案） 11 資料6 浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略 12 資料7 第2期浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像および 主な取組の一覧 13 資料8 総合戦略施策シート
その他	傍聴者：なし

審議内容（要旨）

開会（午後1時30分）

事務局

皆さまにおかれましては、ご多用の折、ご出席をいただきありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今から、令和元年度第2回浅口市総合計画審議会及び令和元年度第1回浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を執り行います。

本日の会議につきましては、お手元の次第に沿って進行させていただきます。

本会議は原則として公開とし、委員・事務局以外の方についても氏名・住所・所属等を明らかにした上で、入室・傍聴が可能としておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日の審議会は次第にあります答申までが「総合計画審議会」となり、諮問以降が「まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会」となります。

また、委嘱状の交付につきましては本来であれば、市長自ら委員の皆様へ委嘱状をお渡しさせていただくところではございますが、時間の都合上、お手元に予め配布させていただき、交付に代えさせていただきたいと存じますので、何卒ご了承ください。尚、このたび、株式会社山陽新聞社笠岡支社長が石原様から鈴木様に代わられましたのでご紹介させていただきます。

また、会長・副会長の選出につきましては、総合計画審議会と全く同じ構成です。引き続き、会長を中村良平委員、副会長を井上邦男委員にお願いさせていただきます。

(拍手)

ありがとうございます。

それでは、中村会長、井上副会長よろしくお願いいたします。

答申

事務局

それでは、浅口市総合計画審議会中村会長より、栗山市長に答申していただきます。中村会長、栗山市長はお席の前にお進みください。

(中村会長が答申書を読み上げ、栗山市長に手渡す)

ありがとうございました。

諮問

事務局

続きまして、栗山市長から諮問を行います。

(栗山市長が諮問書を読み上げ、中村会長に手渡す)

ありがとうございました。どうぞお席にお戻りください。

市長あいさつ	
事務局	次に、浅口市長栗山康彦がご挨拶を申し上げます。
栗山市長	<p>こんにちは。今日は大変お忙しい中をご出席いただきましてありがとうございます。心から御礼を申し上げます。</p> <p>中村会長、井上副会長をはじめ、総合計画の審議会委員の皆様におかれましては人口減、少子対策の審議のために公私ご多用の中お越しいただき、本日答申をいただきましたことにつきましては、厚く御礼を申し上げます。</p> <p>また、本日は浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員につきましても、お引き受けをいただきまして、重ねて御礼を申し上げます。</p> <p>生まれて人生最後まで、私たちが安心安全に暮らしていけることを、私達、行政がいつも願っているわけでございます。そういったことのために、浅口市も令和2年度から令和6年度までの5年間の計画期間とする、第2期の総合戦略の策定を進めております。</p> <p>この総合戦略は、一言で言いますと、浅口市に住んでよかった、浅口市でずっと暮らしてよかった、こういう言葉が聞けるような特色を生かしたものにしていきたいと考えております。</p> <p>そのためにも皆様の忌憚のないご意見をお聞かせいただき、ご議論を申していただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>市長は他の公務の都合で退席いたします。ありがとうございました。</p> <p>(市長退席)</p>
議事	
事務局	<p>それでは、これから議事に入らせていただきますが、ここで今後の進行についてお願いがございます。これからの審議内容につきましては、正確を期するために記録をとってまいりたいと考えております。</p> <p>つきましては、ご質問及びご意見を出される時には、挙手の上、会長から指名された後に、お名前を言っていたいただいたうえで、ご発言をいただきますようお願いいたします。</p> <p>本日は、審議会委員18名中14名がご出席でございますので、審議会条例第6条第2項に規定する半数以上の出席があることから、審議会が成立していることをご報告申し上げます。</p> <p>それでは、これからの進行につきましては、審議会条例第5条第3項に「会長</p>

<p>中村会長</p>	<p>は、会務を総理し、審議会を代表する」と規定されておりますので、中村会長に議事の進行とご挨拶をよろしくお願い申し上げます。</p> <p>改めまして皆様どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>第1回のまち・ひと・しごと創生総合戦略の審議会になっておりますが、第1期が今年度で終了するというので、第2期総合戦略策定のためにお集まりいただいております。</p> <p>今、総合戦略を策定してほぼ4年を超えて、色々なところでそれを振り返って評価がなされておりますが、非常に芳しくなく、1部の小さな町は別として、人口増が達成されたところはほとんど皆無に等しい状況ですし、目標とした出生率も同じような状況になっております。</p> <p>最初からそうなのではないかという気もしていたのですが、人口ビジョンというので、今後、出生率や人口の移動の割合だとこれぐらいになったりするので、もう少し人口を維持するためこれぐらい数値を上げる。そうすると、10年、15年後の人口はこれぐらいになります、というような人口ビジョンを立てていたというのが人口ビジョンであります。</p> <p>もう1つは、総合戦略の中で、子育て支援であったりあるいはまちの産業の振興であったり、移住の促進であったり、教育の振興であったり、そういったことが総合戦略だったのですが、両方がそれぞれ別々に考えられていまして、自治体としては、片方はコンサルに委託して、片方は自力で策定している。</p> <p>本来は、教育や子育て支援やあるいは企業融資など、そういった色々な戦略を達成したら、どのくらいの人口になるか、出生率がどうなるか、あるいは転入者、移住者がどれくらいになるだろうかということになり、それで人口がこうなるだろうとなるのが普通なのですが、それが連動していない。全ての市町村がそうです。</p> <p>今回はそういったことを無くす、こういった戦略を考えるので、こういう人口、出生率、転入者になるというような、人口ビジョンと連動して考えていかないと、また3年先、4年先に同じような話をしないといけない。</p> <p>過去のこの総合戦略は今の内閣が作ったものですので、第3期はないと思いますが、トータルで10年間ありますので、その間、市の人口が少なくとも減らない、高齢化率も何とか維持できる、出生率も維持できるというようになれば、これだけでも総合戦略は作った意義があったなと思います。</p> <p>皆様十分ご意見をお願いして、諮問にお答えしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、皆様のお手元にある議事次第にもとづきまして、大きく3つございます。来年4月から始まる総合戦略の第2期の当市の、まち・ひと・しごと総合戦略の策定方針につきまして、事務局の方からご説明をお願いしたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料1をもとに、第2期浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針について説明)</p>
<p>中村会長</p>	<p>どうもありがとうございました。</p>

	<p>達成目標の目標値の設定が重要なところであるので関心を払っていただきたい。高い所にするとう達成できないし、低い所にするとう設定して何の意味があるかというところ、そこそこ努力したら達成できるというさじ加減が重要。単に定めればいいというものではなく、4年前は初めて出てきた言葉でとにかく定めよということだったが、思い切って出生率が2.1とか2.2とか出したところ、とても出来なかったようです。低めにしたところは、軽くクリアしているということもあって、さじ加減が非常に難しいところだと思う。</p> <p>数字というのは後々まで評価の対象になるので、意外に重要なところがあるので、この後皆様にも関心を払っていただきたい。</p> <p>後は、重点的な検討方法で、雇用と人口の流入、子育て支援。こういった感じですよ。</p> <p>大筋ですが、何かご意見、ご質問などがございますでしょうか。</p> <p>ここはあらずじなので、特にないのではないかなと思いますが、むしろ次の(2)の人口ビジョン、(3)の素案の方で、それぞれ皆様の御立場からご意見をいただけたらと思っております。</p> <p>まず、人口ビジョンの素案について、事務局のほうからご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(資料5をもとに、浅口市人口ビジョン(改定)(素案)について説明)</p>
中村会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>下方修正はやむを得ないところだが、ただ、下方修正をしているが、25年の合計特殊出生率を上げているので、もし同じだったらもっと下方修正をしないとイケない。そこが非常につらいところ。</p> <p>21ページのところで、戦略人口の話があったが、2015年の合計特殊出生率の1.37は実績か、見込か。</p>
事務局	<p>2015年の合計特殊出生率の1.37は実績です。最初に国の方が1.3と出しており、外国人の関係を抜いて、今回は資料提供にあった1.37ということで公表されているので、実績の1.37を入れている。</p>
中村会長	<p>前の時より0.01ポイント上がっているのは喜ばしいこと。</p> <p>色々な施策を講じるわけだが、ただでさえ20代前半から半ばの方の人口が減ってくる状況で、出生率が上がっていくのが、相当30代前半に頼らないといけなくなるため大変だという気がする。</p> <p>就業者や色々なところで人口が減るようになっていて、増えるのは高齢者の割合だが、亡くなる方はどのように推定されるのか。</p>
事務局	<p>亡くなる方は、社人研の出している率を年に掛けて、減っていくということですよ。</p> <p>資料の7ページを見ると、最近では大体、出生のほうは200人をきっておりまして、死亡が500人近くになっていて、年間300人ずつ減っているのが実績ですよ。今後これがもう少し顕著になるのではというように推定をしている。</p>

<p>中村会長</p>	<p>出生率の方に目がいくが、死亡率の方は基本的に高齢者が増えると、ある程度亡くなる方が増えざるを得ない。これはかなり予測が当たる。</p> <p>ひとは団塊の世代を迎え、ピークを迎えるだろうということもあるが、町としての取り組みとしては、健康的な高齢者、健康寿命ができるだけ長い、単に長生きすればいいということではなく、元気で介護にあまり依存されないような、高齢者が増える施策や、町づくりが必要になってくる。そうすると少しでも亡くなる人が減るかもしれない。</p> <p>健康づくりや健康寿命の延伸で、色々な戦略やまちづくりのことをやっていて、高齢者が増えるから亡くなる人も増えるというだけの考えは短絡的なので、健康寿命を総合戦略の中で考えていけば、少し改善されるかもしれない。出生率を上げるよりは健康寿命率を伸ばす方がいいのではないかと思う。</p> <p>グラフの要因のところ、20代が前に比べて、定住者が増えていくというのは厳しい話であり、後の戦略の住宅支援や子育て支援などを実行していくことが重要になってくるのではないかと思う。</p> <p>ということで、浅口市の人口ビジョン改訂版の素案ということで、皆様から色々なご意見とご質問を承りたいと思います。</p>
<p>柏原委員</p>	<p>資料4の8ページ、合計特殊出生率の比較が出ているが、県北の方が県南の市よりも高く、差が0.4くらいあるが、その原因は何か調べているのか。その原因を埋めていければ浅口も2.いくりに近づいていくのではないかと思うが、原因がわからなければ2.いくつという出生率の出している根拠が何なのかわからない。</p>
<p>事務局</p>	<p>全国的に見ると、東京や都会の出生率が低い。岡山県で見ると、県北など人数が少ない所の出生率がいいというのは、女性があまり外へ出ていかない。浅口市の場合を見てみると、20代30代が少ないのは、結婚して倉敷、特に玉島に出ていく人が多い。男性、女性の方で、結婚されていない方が、実家にそのまま残っている。はっきりとした数字ではないが、人口ビジョンを作っていく上では、そのような傾向があると感じている。</p>
<p>中村会長</p>	<p>それは、家の問題なのか、働く場所なのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>働く場所が、浅口市よりは倉敷市の方が多いことが理由の1つと思われる。</p>
<p>中村会長</p>	<p>そうそう仕事は変えられるものではない。やはり、住宅の問題が大きいのではという気がする。あと、勤務地がどこになっているのかということもある。浅口の場合は倉敷がかなりの割合を占めていて、倉敷近辺で玉島ということもありえる。</p>
<p>事務局</p>	<p>先程の転入、転出の話だが、資料の10ページ、多少以前より好転している。この近辺の転入、転出の状況は、以前は倉敷市の方への転出が多かったが、新しい人口を見ると、転入の方が倉敷市より勝っている、この辺りは前回より少し解消されていると考えている。</p>

<p>中村会長</p>	<p>出て行く方と入って来られる方が今のところ±ゼロくらいになっており、何とか踏みとどまっていると思う。この後に出る計画の目標値もゼロを目指している。若干の好転はあるのかなと思う。</p> <p>合計特殊出生率 2015 年に 1.37。前の計画だと 2010 年が 1.37、2015 年が 1.36。今回も前回と一緒に 2020 年が 1.60。2020 年を変えていないが、達成できるのか心配。計画なのでまだ 5 年程先かなと思ったが、2020 年は来年の話。直近のところで 1.5 位あればいいが、来年国勢調査もあるが、逆に下がったりすると、1.6 を達成するのはかなり難しい気がする。</p> <p>特殊出生率が増えそうな気配があるとか、愛育委員の方、周辺をご覧になっていかがですか。</p>
<p>山田委員</p>	<p>私の住んでいる所は、金光町占見というところで、どんどん家も出来ていて、若い 30 代 40 代の方のご家族が増えていて、町内に働きに行っていないので、倉敷や岡山に行っているのかなという感じです。</p>
<p>柏原委員</p>	<p>不動産の経験からいくと、住宅が増えて入って来るのは子供が保育園とか小学校の子が入って来るので、出生率はほとんど影響がない。出生率を増やす年代を増やそうと思うと、賃貸のほうの補助を組むとか、新婚の方が入るといようなことを考える必要がある。</p>
<p>山田委員</p>	<p>確かに、赤ちゃん訪問で生後 3、4 か月くらいから回っているが、そんなには増えていない。既に子供を産み終わった方や、お子さんが大きくなった方が家を建てている。だが、とてもありがたい。凄く賑やかになった。</p> <p>マニュアルの方に、交流に愛育委員会で行った時に、市町村で合併してマニュアルを作っているが、人口がものすごく減るような地域ですが、子供達、子育てや出生に関して沢山のお金をかけている。後は、お年寄りが健康になるために、健康体操などをテレビでしたり、真庭市のほうで色々したりとか、努力を凄くされている。やはり、お金をかけないと駄目なんだろうかと思う。</p>
<p>中村会長</p>	<p>以前、5 年くらい前に岡山県がやっていた出生率で、1 位が奈義町。岡山県下市町村 27 のほとんどが下がっていたのだが、奈義町が非常に高く、新聞やネットで話題になった。</p> <p>理由は 2 つある。1 つは出産祝い金などが手厚い。ただそれは財政負担を伴うので、未来永劫続くものではないが、子育て支援に対して金銭的な支援が行き届いている。</p> <p>もう 1 つは、コミュニティ。工業団地があるので若い人、転入者が来ると、地域のコミュニティで溶け込めるように、子育て支援などの交流があったり、コミュニティがうまく機能していて雰囲気がいい。例えば子育て支援に対して、地元のコミュニティが 20 代の人相談に乗ってくれたりする雰囲気があり、そういったことが出生率を高めている要因になっているのではないかな。</p> <p>もう 1 つ、真庭の例もだが、西粟倉村という合併しなかった、人口千人未満</p>

の村があるが、直近のところはわからないが、子供が増えている。  
計画、トレンドを見ると、小学校の生徒がずっと増えている。非常に稀なケースである。出生率も増えている。ということは、若い人が移り住んでいる。  
なぜかというのは、そこで若い人が働けるような産業、例えば、森林資源を生かして木材・木製品を作るデザインをしたり、木工をするということで、全国から若い人がそこで修業をしたり働くために定住し、村が作っている村営住宅に住んだりしている。  
ウナギの養殖や、技術を持っている人が入って来て、そこで色々なことをする。若い人がだんだん増えてきて結果として子供も増えている。非常に珍しい例。やりようによってはなんとかなる。  
西栗倉のような小さい町だから非常に影響力が大きいのかもしれないし、人口が3万人を超えるとインパクトが弱くなるのかもしれないが、やってみる価値はあると思う。

山下委員

先程の子育て支援について、OECD 経済協力機構のデータで、子育て支援をすると経済成長率が上がるという結果が出ている。  
保育の充実も経済成長率も公共事業も大切だが、公共事業 1.1%に対し保育の充実は 2.3%。その中で女性が社会進出することは、色々な面で人口の増加も、経済的な成長も、結果が出ているらしい。それを参考にすれば、お年寄りも大切だが、保育の充実や子育て支援の方に相当の力を持っていけば、浅口市も色々な面で結果が出てくるのではないか。

中村会長

おっしゃる通りだと思う。公共事業の効果がどれだけかというのは、悩ましいところでもある。子育て支援をしっかりとすると当然、若いお母さんが仕事も続けられて、復職もできる。そうすると、働かない人も働くようになるので、経済成長もプラスになるし、女性が働く場所というのは割と隙間産業的なところもあるし、今までになかった様な分野で成長率を高めることがある。  
意外に気づかないところは、我々が子供の時は、男性が外で働き、奥さんは子育てや家事をするのが定番だったが、今、そうではなくなってきて、ほとんどの若い人は共に働く。子供が生まれた時だけ育休や産休を取り、また復活して働くということが当たり前の状況になっている。そうすると、今まで家の中で奥さんがやっていた子育てや家事や周辺の活動ができなくなり、外に出さないといけない。今までやっていた子育て支援を、ハウスキーピングに任せる、保育所に行く、料理ができないとなるとケータリングや、簡単な料理ができるような食材のサービスができる。ということは、家の中で取り込んでいたものが外に出てくる、一種のアウトソーシングだが、そうするとそこで新しい仕事が生まれるので、雇用が生まれ、経済が成長するということになる。  
子育て支援というのは、その直接的な効果と間接的な効果があるので、非常に公共事業として影響がある。  
公共事業の場合は地元の建設業者の方が受注した場合はそれでいいが、大手の業者があつて、下請けを地元の業者が受けた場合、かなりの部分は大坂本社や東京本社に抜けてしまうので、あまりお金が落ちない。結局大手が受注するとそこが全部資材を集めてくるので、小さい公共事業は別として、あまり思っ



	<p>た程、公共事業は効果がないので、将来的に考えると子育て支援に投資をするというのは、良い意味で経済を活性化させることになると思う。</p> <p>この後、総合戦略の細かな話があるので、それを是非組み入れていただければと思う。</p> <p>子育て支援を市の改革でやるが、面白いことに、若いお母さんが2人目、3人目、今4人目でもうすぐ産休に入るナースの方がいるのですが、こういうことが一般的に起こってきている。</p> <p>子育て支援を銘打って企業がやっているのと、明確にそちらのほうに動いていくという実感がある。</p> <p>もう1つは、寄島に住んでというのと、便利が悪いから住まない。里庄が1番だが、鴨方、金光も便利がいいところには住む。そこから通ってくる。そうすると、金光・鴨方ラインの便利の良いところに、アパートメントを安く借りられるように経済的に支援をすると、若い夫婦が入って来ると思う。倉敷市も安いアパートはあると思うが、相当古くて汚いと思われるので、大きな建物、住宅を建てるより、アパートメントのような形のもので、若い人を呼び込んでいく。そうするとその後、また近くに家を建ててもらえるということも起こってくる。</p> <p>まずは、アパートメントのような住宅を提供できるような環境を作っていけば、相当変わると思う。うちの職員なども、皆アパートに住んでいる。多いのは新倉敷で、便利がいい。それから、金光にも住みだしている。多くの場合、里庄が多かった。子育て支援の政策がいいから。そのあたりを考えれば、3人目、4人目まで作ってくれるようになるのでいいと思う。</p> <p>ただ、計画で見ると、2040年から2060年の合計特殊出生率が2.07になっていて、目標としては1.4位でいいのではないかと思うが、どういうところから2.07が出るのかと思う。</p>
<p>福嶋委員</p> <p>中村会長</p> <p>事務局</p>	<p>何人結婚した女性が子供を産むのかということと、その前の前提として非婚率が上がっている。そうするとその前の婚活の支援からやる。アパートを建設する、住宅を供給するというのは、2DKのコーポみたいなものだと思うが、以前、東京のある区で1年、学生にアパートに住むため支援をするということをやった。ただし、無料ではなく学生が住むのなら地域のコミュニティ活動に絶対参加すること、という条件を入れた。</p> <p>たとえば沿線上にアパートで住宅補助をする。企業からの補助があるかもしれないが、1か月2万円の補助をする。そのかわり、地域のコミュニティ、自治会費を払って自治会活動に参加するという条件を入れれば、いいと思う。単に補助で終わらない。抱き合わせの政策を考えていただければいいかなと思う。</p> <p>もう1つアパートの場合は、スクラップ&amp;ビルドをやり易い。</p> <p>人口のこともだが、数字の2.07は仕方ないと思うが、1.6から急激に上がるのは理由付けが欲しいという気がするし、その辺をこの後、総合戦略のほうでカバーしていただきたいと考えております。</p> <p>(資料7・8をもとに、第2期浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案))</p>

<p>中村会長</p>	<p>について説明)</p> <p>先程、ご意見があった施策だが、基本目標の2番、新しい人の流れをつくるのところで、②の具体的な施策の住まいの確保、23・24・25とあるが、民間の賃貸住宅の立地促進とその補助というのを入れてはどうか。</p> <p>若い子供がおられて、一戸建てで入って来られるところは、一人で子供2人がいるところに3人、4人、というより、若い人が入ってきてプラス1というほうが大変大きいので、金光から鴨方、里庄までの、空き家も利活用することも含め、住宅への家賃補助も考えて、ただし、妊活をしてもらおう。そうしないと、20代半ばまでの2人の若い世帯というのは街中、ここでは倉敷に住みたいというのがある。それに打ち勝つための施策を作らないと、今までと同じような人の流れになってしまうのではないか。</p> <p>思い切った施策というのは、第1期で反省する場をとっても、またこれから交付金も色々出てくるかもしれないので、入れた方がいいという気がする。</p>
<p>福嶋委員</p>	<p>今、中村先生がおっしゃった通り、若くて未婚の人達が、浅口は安く住める。若い人にコミュニティ活動をする義務を課したうえで、若者に浅口市に住んでもらう。</p> <p>コミュニティ活動をするにも、若くて団地に入ってしまうと、若いのに愛育委員にされたりしてしまうと、平日に出ないといけないことが多くなり、仕事が立ち行かなくなってくることがあり、そこを休日にしてもらえとか、主に週末に活動ができるような形で、コミュニティ活動についても工夫をすれば、若者が入っていける状況が作れるのではないか。</p> <p>ここは行政側も含め、愛育委員さん、民生委員さんが考えていただければできると思う。若者の施策以外にないと思う。</p> <p>この地域は、高齢者の施策はおそらく県下トップクラスでやっているが、子供が生まれて育っていくためには、子供を作る人達が入って来て、外に出ないことを考える。働く場所をこの中に求めるのは人数が難しいと思うが、住むことは可能だと思う。</p>
<p>山下委員</p>	<p>それに関連してコミュニティに参加するという補助制度で、若者が定着することは、コミュニティのおじいちゃんおばあちゃんや、お父さんお母さんなども人間的な繋がりができて、副作用的に縁が結ばれるということもできる。コミュニティに参加していただくのも、今の時代これから特に高齢化になるほど若者の参加というのは、何かの手立てをしていかないと、コミュニティが崩壊してしまうという状況になってしまうので、そういう制度は良いと思う。</p>
<p>原田委員</p>	<p>若い人の出生率にこだわる必要があるのか、それとも若い人が子供を連れて来てくれればそれでいいのか。それでもいいわけです。</p> <p>私自身も結婚して子供ができる、そのあたりまではアパートでいいが、アパートだと大体2LDKが多い。2LDKになると2人目が生まれて大きくなると狭くなり、建てようかという話になる。</p> <p>次の段階までを考えておかないと、次の段階で考えることは、アパートを探</p>

<p>中村会長</p>	<p>すこととかなり違ってくると思う。親の通勤のこともあり、今度は子供の学校がということがでてくる。</p> <p>例えば、出て行った人に対してのストーリーが見えてこない。こう考えられますという原因のところに関しては多いが、出て行った人について、ストーリーの聞き取りのようなことが出来ないものか。全部は大変だが、5人に1人でも百ちょっとデータが集まってきて、どうして浅口市ではなくほかの場所を選んだのか、理由がある程度、現実感を持って見えてくるのではないか。見えてくると、そこが浅口市に足りないものなのかもしれないということで、具体的な政策に繋がりやすいのではないか。</p> <p>それは実際、昔真庭で行ったことがある。方法は、2月・3月の転出時期のピークに、当然市役所に住民票の転出届を出すので、その時に、転出の理由とこのを5項目くらい作っておいて、選択肢で回答してもらう。</p> <p>例えば、親の介護や、住宅を建てた、子供の学校とか、いくつか理由で考えられるものを10パターンくらい考え、それに該当するものを番号指定して転出届と一緒に提出してください。これを浅口市の施策として行えば、結構サンプルが取れると思う。</p> <p>17、8年前に秋田県で行った。秋田は浅口市以上に人口減少傾向だが、アンケートは無記名でいいと思う。年齢と行き先、男女の性別と、最低限の属性を聞いておくだけでいいと思うので、是非やられたらいいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>人口ビジョンの資料5の19ページ、③番目になります、転入・転出について浅口市がやっております。これは県の方が転入だけをやるということで始めたが、それでは勿体ないので、独自に転出もやっています。</p> <p>ここに書いているように、転入は、仕事の都合で来られた方が多い。転出の理由としても、仕事の都合というのが5割以上で、中には結婚とかということになる。特に県外から来る方に関して、本当の移住者と言われる方については、岡山県は災害が少ないから良かったとか、そういうところに丸をさせていただいているのが多い。転入・転出については、20代・30代・40代のライフイベント、仕事が変わる、子供が生まれた、そういう方が多い。</p>
<p>中村会長</p>	<p>同じことを里庄町でやると、同じような結果がでてくる。</p> <p>仕事の都合は転勤ですね。その場合、大事なものは、出て行った人数分だけ転勤で入ってきてもらわないと困る。それ以上に入って来る人数の方が少なければ、その企業は縮小しているか、その地域にある支社が縮小しているということになる。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>子供に係る支援ですが、学童保育では、今出産ブームがあり、2人目、3人目、4人目という形で子供が増えている。ただ、残念なことに今来られている方が家を買われるのに、鴨方は高いので玉島に買って、中学から向こうに行きます。という方が2組もいる。鴨方は、新しい土地や、池を埋め立てたりいろいろされているので、南側にもたくさん土地があるが、値段が高いのかなと思った。</p>

<p>柏原委員</p>	<p>やはり、玉島の方に子供が出来たから建てるというのがあるが、実家の方に一緒に住むことが出来ないで、新しい家を求める。土地が高いのではないかなと思っている。土地を買いやすい形にしていってあげたら、本当は鴨方に住みたいという方ばかりだったので、残念だと思う。</p> <p>玉島、鴨方、金光を比較すると、玉島の便利の悪い所は安い。便利の良い所、新倉敷の辺りは、鴨方、金光の倍するが、決して鴨方、金光が高いわけではない。唐船の横の阿賀崎だとか、あの辺りを買えば、確かに安く買える。</p> <p>実際、金光や鴨方は便利がいいので、玉島の少し不便な所よりは高い。僕も今、分譲地や色々販売している土地があるが、ほとんどの方が鴨方、金光のアパートに住んでいる。</p> <p>買われる時に、どうしてここに住むのか、他から来た方にもお聞きすると、住むと住みやすい。子育て支援が玉島より充実していると言う方がいる。一番多い理由は、奥さんが鴨方に引っ張ってくる。実家が六条院だから、小坂だから、というようなケースは殆ど、鴨方や金光に来る。</p> <p>後は、もう少しその方も、研究していただければ良かったと思う。もっと鴨方と金光の人口が増えるように努力します。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>駅前のほうでも空き家が、ずっと何年も住んでいない立派な家があったりするが、そういう所をもう少し開拓して、手が入ったりしていけばいいと思う。家があっても誰も住んでいないという家が勿体ない。</p>
<p>柏原委員</p>	<p>浅口も岡山県下もどこも空き家があり、だいたい月に5件くらいそういう相談がある。</p> <p>実際に、住めるものがないので、多分そこを借りたりすると、何百万、下手をすると一千万くらいのリフォーム費用が必要になる。</p> <p>敬遠されるのは、だいたいそういう家があるのは、集落の中である。若い方がどうしてもその中に飛び込んでいくという勇気がないので、そういう物を中古住宅という形で販売していくというのは、なかなか市場に乗ってこないのが現実である。だが、少しリフォームすれば本当にいい家が沢山ある。新興住宅地の中古住宅は売れるが、集落の中にある中古住宅はなかなか売れない。</p>
<p>中村会長</p>	<p>資料8の全部を見るのは大変なので、みなさんそれぞれ一番近い分野の目標のところをご覧になっていただいて、削除したのがどれかとか、平成30年度の目標がこれで、令和6年度がこれ、いろいろ数値があったり追加したりを確認してください。2枚目が転入の促進で、観光の話もあります。観光については、前の審議会の時にPRが良くないという話で、岡山県下の自治体が集まった時も浅口市だけがパンフレットを持っていなかったというのを覚えている。ここはしっかり意識していただきたい。</p> <p>そんなに沢山観光資源があるわけではないが、隣の里庄町はむしろほとんどないので、そこよりは資源としてはある。もう少し浅口市の沿線で一緒に観光PRをしたほうがいい。ここだけ来て帰るということではないので、この沿線</p>

	<p>や、場合によっては井原や矢掛と一緒にあったり、矢掛は今、観光によるまちづくりでにぎわっている。公民館を再生するとか、町家公園とか積極的に昔からあるものを活かさないで、インバウンドはなかなかこない。</p> <p>そういうことをするためには、JRもそうだが、自転車やレンタカーも含め、モビリティを充実させておかないといけない。特に自転車は重要だと思う。観光はそれほど目玉ではないが、忘れてはいけない。</p> <p>それから、今日、中心的な話題となっている基本目標3のところの子育て支援。</p> <p>あと30分くらいですが、皆様、子育て支援のみならず、色々なところで、お気づきになったところを是非おっしゃっていただいて、方針に反映させていただくようお願いしたいと思います。どうぞ、ご意見を。</p>
<p>小野委員</p>	<p>色々なご意見をお聞きしていたんですけど、今、日本全国のさまざまな自治体を実施して成果を上げている、私自身が住んでいる所もそうだが、地域のブランド力を作るための施策。</p> <p>例えば、この小学校だと、英語に力を入れる。そういったブランド力を持つことによって、教育に力を入れるのであれば、すぐに子供を通わせよう。となると越してくる。というのも1つの戦略になるのかなと思う。</p> <p>私の住んでいる所は倉敷だが、大高学区の小学校で、私の子供の頃は8クラスあって、隣の学区の小学校は1学年2クラス。道を挟んで距離が近いのに何が違うのか。というやはり、当時の大高小学校は、岡山県下でも注目された教育を行っていたというのがあり、未だに学区の人口が増えているという状態。</p> <p>先程、色々な話があったが、結婚して賃貸に住む、子供が出来て家を買いましょ、家を建てる場所で決め手になるのは、奥さんの実家の近くへ行こうというのと、ご主人の通勤手段、教育の3つだと思うが、その力を入れていく中で、教育が大事なのかなと思う。</p> <p>もう1つ言えば、子育てイコールお母さんだけでなく、子育てイコール夫婦というのが今の流れですから、中国銀行でも行っているが、ご主人が育児休暇を取得するのを義務化するという取組をやっている。例えば、浅口の企業も行っていくのも1つの方法ではないかと思う。</p>
<p>中村会長</p>	<p>育児休暇を男性も取ろうというのは企業が決める事なのだが、国の方針でもあるので、市としてはそれをバックアップするというスタンスが必要だと思う。</p> <p>東京だと、進学校がある沿線の土地はとても高い。例えば、開成中学に1本の電車を通える常磐線や千代田線など、非常にアクセスの良い、私立の6年制に通える土地は人気があり、そこには必ず予備校が乱立しており、それは重要なことだと思う。</p> <p>教育だけではなく、重点戦略としてそれぞれ基本目標が4つあるので、ブランドをいくつも作るとブランドでなくなるので、4つの基本目標の中のそれぞれ1つずつつくらは、光り輝くような人を引き付ける、他ではしていないような施策を、思い切って作ればいいのではないかと思う。</p>

<p>吉岡委員</p>	<p>今言われたことは、本当にその通りだと思う。</p> <p>以前、里庄が凄く人気があった時期があり、子供と関わる仕事をしているので色々な方が、鴨方は落ち着いているか。里庄はいいらしいのだが、鴨方はどうなのかという風に比較され、里庄に行こうかなという判断をされた。その時、里庄の何が良かったのか具体的にはわからないが、学校が落ち着いている、評判が良い、など口コミで広がって、すごく人気が出ていた時期がある。</p> <p>子育てをされている他所から来られる方々は、安心して学校に行かせたいと物凄く思われているので、学校の環境、先生の充実も大事なことだと思う。</p> <p>それから、先程中村先生も言われたように、子供1人生まれるごとに、大きな額でなくても、10万円ずつとか目に見えた形の支援が、物凄くお母さん、お父さん方にとっては嬉しいことだし、気持ちを引き付けられるのではないかと思う。</p> <p>そういった目玉のことをしないと、小さなことをしているようでは、人を引き付けられない。</p>
<p>中村会長</p>	<p>それぞれ主な取り組みが複数あるが、1つ減らしても、減らした分重要な施策にお金をかけた方が、これを重視しているという抜本的な施策が出来るような気がする。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>同感です。項目が97あるが、おそらくどこの自治体も同じような項目が並んでいるのだろうと思って、他に考えるというのも埋没しかねない。</p> <p>浅口が特に何をやりたいかが、資料を読んだだけではなかなか見えづらいというのがあるので、これで行くのだという突破口、例えば子育て支援とかがあれば、思い切って他のものを削ってでも勝負したほうが、インパクトや情報発信という意味で言うと、人を引き付けるのではと思う。</p> <p>不勉強ですが、国の方で方針など、これを入れなさいというのが決まっていると思うので仕方がないのだが、そういうのがなければ思い切ってこれだというところに、特化するくらいの思い切りがないと、出生率のように5年後、6年後、やはり難しかったということで同じ議論、同じ結果になっているのではないかと思う。</p> <p>もう1つ、ビジョンの中にあつた言葉で印象に残っているのだが、30ページ。これが全部うまくいくというのも、難しいものばかりなので、牽引してきた時に、実現するにはどうしたらよいかを考えると、行政の人だけというのはかなり限界があるのではないかと思う。</p> <p>要は危機感を皆で共有してぐっと牽引するようなものを、まず、核となるようなものが、力を上げて牽引するようなものが何かないと、何となく計画を立てて、1年ほど進めて萎んだら何をしたいのかとなる。どこまで戦略としてうたえるのかわからないが、実施体制で光るようなものを記述できればいいなという印象を持った。</p>
<p>中村会長</p>	<p>総合計画が早晩的になるのは、各部署の意向を踏まえなければならないので仕方がないことが、戦略は必ず目標値を達成できるものに決めて、絞って目標値を高くしておいた方が、大概どこの自治体も今も作って出しているが、あま</p>

<p>福嶋委員</p>	<p>り変わりはない。</p> <p>僕達、組織の中で何かする時、重点5項目や、重点3項目を必ず作る。それ以外は目を向けるなどというわけではないが、あまり見ない。多いと埋もれてしまうので、数があってもよいが、その中の重点項目を片手以内にする。それで何年か実施し、その成果をこの会議で評価をする。ある程度、勝てる戦略を立てるといことで、重点何項目を作ると解りやすいし、広報もしやすい。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料7の主な取り組みというのは、実際に97項目あり、かなり多いのだが、細かい全ての取り組みが入っていて、実際に総合戦略として冊子になる場合、資料8は全ての取り組みの中で、1番重要な取り組みについて、数値等を目標に、最終的には1番上の数値目標が達成できるようにするという形で、KPIを絞り出して資料8に並べている。さらに、ご意見をいただいたように核となるような施策の方向性をいただけると、より特化した戦略ができるのではないかと思います。</p>
<p>山下委員</p>	<p>資料7と8の整合性だが、具体的に言うと、資料7の89番「高齢者支え合いサポーター事業の充実」これについては、資料8の中に全然見当たらないが、どこかに入っていないのか。その他として解釈すればいいのか。消えたわけではないのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料8の方には、資料7の全ての取り組みの中から特に重要度の高い取組をピックアップしてKPIとして載せさせていただいている。「高齢者支え合いサポーター事業の充実」についても、総合戦略の冊子に主な取組として掲載する、消えたわけではない。</p>
<p>山下委員</p>	<p>これは需要が多く、介護保険の制度が変わって、困っている方が多い。</p> <p>そういった中で、高齢者が高齢者を支え合うという現状がある。介護保険を減らさないといけないというのが根底にあるので、協力していこうという地域が非常にある。自分のできることはしてあげるとい。これをばっさり切らないようにしてほしい。</p>
<p>福嶋委員</p>	<p>高齢者支え合いサポーター事業というのは、今後、要介護認定、介護保険の中で比較的軽めの人を外していこうというのが国の目論見なので、外された人の行き場がなくなる。そうすると、少し若手の高齢者、80代の人が90代を見る、80代の現役高齢者が80代70代後半の虚弱高齢者を見る、という形になっていく。そうすると、これは基本的には絶対外せない。</p> <p>その町の中で高齢者が生活していくためには、どうやってボランティアの人にうまく働いていただいて皆でサポートするかということにかかっている。</p> <p>この地域は、高齢者の施策について実際に上手く出来ている方だと思うが、これを外すと僕たちからするとえっということになる。</p> <p>これからは、一番問題なのは、高齢者ばかりになり、生まれる人がほとんどいないので、人がいなくなる。それを見越し、そうさせないためにはどうする</p>

<p>原田委員</p>	<p>かということ。</p> <p>子供を産んで育ててもらえる環境を作ることが一番だし、年齢が高くなった人は出来るだけ健康なまま亡くなるのがいいし、虚弱な人は皆で周りの人で支え合っただけということになっていく。容態が悪くなった人は医療費がかかる。というのが国が決めていた形。これはあったほうがいい。</p> <p>これから何かを絞って、何処かに集中していこうという時に、一番足を引っ張ってしまうのが、ここは手を付けないでほしいという意見。結局、身動きが出来なくなってしまうので、勿論それはそれで大事にするが、前に出していくものは出していくんだという所と、維持していくところを分けて考えたほうがいいのかなと思う。</p> <p>市としてこれを決めるためには、各部署からあがってきたものが活かされているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>課からそれぞれあがっている。</p>
<p>原田委員</p>	<p>1度ゼロベースで、強みを発展させていくという発想からいったほうが戦略的にいいと思う。</p>
<p>中村会長</p>	<p>典型的なのが例えば、地域を担う人材の育成とコミュニティ創生の部分で、地域おこし協力隊の活用が上がっているが、ここはKPIを非常に作りやすい。だが、地域おこし協力隊をどう活用したらよいか、提案型事業がどれだけあったのか、それで何が出来たのか、というのが本当のKPI。参加者が何人いたなどではなく、参加者の中で成果があがったのは何人いたかのほうが大事。</p> <p>例えば、就職説明会のマッチングで、100人来ましたではなく、マッチングが成功したのが10人いたというほうが本当のKPI。しかし、それを把握するのが非常に難しい。</p> <p>先程の話の2番の所、83~94まで12項あった。スポーツ教室の開催とか色々考えて当たり前だろうということもあるが、高齢者支え合いサポーター事業の充実など非常に重要だというご意見があれば、この中身をもう少し具体的にしたもので、①~③のそれぞれのところで一番重要なものをもう少し具体的に、戦略として作った方がいいと思う。</p> <p>今の話でいくと、市民提案型事業も大事だが、この中で大事なのは、地域おこし協力隊の活用も大事だし、スポーツの施設や、それを開催していくのも大事だが、それを考えるのは当たり前のことなので、やはり、これからの大事なコミュニティ創生や人材育成を考えるのであれば、高齢者をいかに地域で支えていくかというような具体的な事業の充実の中身を、重点戦略とした方がいい。そこで、それをやるためにスポーツの施設を充実したほうがいいとか、歩くような運動をしたほうがいいとか、もっとそこに地域おこし協力隊を活用、コミットしてもらった方がいいというふうになる。</p> <p>軸としてあって、あとはそれに付随する、派生するというものが、全部並列であるのだが、メリハリをつけた方が、特徴が出て絞りやすいのではないかな。</p>



山下委員	<p>勘違いしないしてほしいのが、資料8にないから駄目だと言っている訳ではなく、資料7が生きているのかということ。できれば、資料から調整することは私も重要だと思う。</p> <p>これは、あくまでも市から要請があり、お互いに協力し合っいち早く立ち上げた。厚生労働省が絶賛して、浅口市の見本を全国発信した。それも知っておいてほしい。KPIとして上がっていないからという問題ではなく、実際に活動している。</p>
中村会長	<p>資料7から無くなったのではなく、おそらく、高齢者支え合いサポーター事業の充実がKPIに書けない。数値目標で定義できない。全部KPIを作る必要はなく、代表的なものを作ればいい。</p> <p>重要性としては、数ある取組の中で、基軸の事業というのがあり、全部並列的にやるものではなく、ぶら下がって発表したりするのもあるので、そういうので少しメリハリをつけて戦略を作っていたら、第2回目の時に議論がしやすいのではないかと。</p>
福島委員	<p>重点項目がいくつかあって、ぶら下がりにした方が見ていてわかる。今回はこれでいいと思うが、これを整理していただいて、重点項目をいくつかあげて、達成するためには何と何と何をやるというのを、大まかに書いてあるほうがいいのではと思う。</p>
中村会長	<p>大体そういう様なことが皆さんの総意のような気がします。</p> <p>1つめりはりとして重点項目を設けて、後は関連する項目を、といった形がわかり易い。</p> <p>大体、終了の時間がありますので、特に皆さんよろしければ、事務局の方でお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>(今後の総合戦略策定スケジュールについて説明)</p>

閉会（午後3時30分）

事務局

それでは、閉会にあたりまして井上副会長よりご挨拶いただきます。

井上副会長

皆様長い間、慎重なご審議をいただきありがとうございました。

今日の皆様からいただきました意見をヒントに、執行部の方も、総合戦略の素案を作成したいと思います。

少し審議中の事で、吉岡さんが言われました、他所から来た人に子供や、子供が生まれたらいくらあげるとするのは、矢掛は特に凄いです。子供が1人生まれると10万円、2人が20万円、3人目が30万円、結婚祝い金は10万円、そして家を建てた場合は120万円です。もう少し考えていただきたい。

もう1つ、鈴木さんが言われたことで、思い切った政策をしないとというのは当然の話です。今、基金が70億円くらいあるんです。そのお金をもっと使えば思い切ったことが出来ると思うのですが。

是非、執行部の方もよく考えて、こういう件が出たんですから、参考にしてやっていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

今日は皆様、色々ありがとうございました。引き続きよろしくお願ひいたします。これで終わります。ありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。

これをもちまして、令和元年度第2回浅口市総合計画審議会及び令和元年度第1回浅口市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会を終わらせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。